



(ひかり かがやく子)

# 「蛭」の子

堀之内小学校だより  
R7年度2月号  
令和8年2月5日

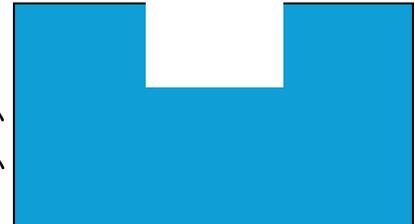
【重点目標】 「自分からひかる 人のためにひかる みんなとひかる」

## ～「凶形」から学ぶ「人の見方」～

右の凶形についてのお話です。

この形を言葉で伝えるとき、どう言いますか？

多分多くの人が「長方形の真ん中が四角くくぼんでいる凶形」とか、「四角形の真ん中が、長方形に欠けている形」などと言うのではないのでしょうか。

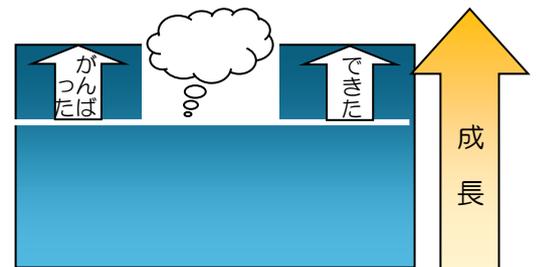


私たちは、常に「完成形」を基本として、物事を見る傾向があります。多分、「長方形の両側の上に長方形が2つくっついている凶」とは言わないと思います。

人の見方も同じです。どうしても「欠けている部分」つまり「できないこと」「良くないこと」などに目が行きがちです。

しかし、子供たちの成長は、「下から上」です。

私たち大人は、気を付けないと、子供たちが頑張っているのに、たった一つの「欠けている部分」が気になってしまい、そちらについて、ついつい言いたくなってしまう。…良くないことです。



「自分」の見方も同じです。「できないこと」や「うまくいかなかったこと」などばかりが気になって、「だめだなあ」と自信を無くしたりします。中には、「私って全然良いところないから」とまで言う子もいます。あんなにも頑張ったことや成長したことよりも、やはり「欠けている部分」に意識が向いてしまいがちです。個人差はありますが、もう小学校1年生の時には、そういう「目」を持ち始めている子がいます。

人と比べたり、自分のマイナス点が気になったりすることは、「成長」している証拠ですが、でもやはり、そういう言葉を聞くと、とっても切なくなります。

子供たちには、こんな言い方で伝えています。

あなたの「良さ」は何ですか？

「だめだなあと思うこと」を直すことも大事だけど、たった一つでいいから、「自分の良さはこれだ」と思うものを大切に、それを磨いていくことはもっと大事。

人は、自分の中に一つでも『自慢できるもの(「ウリ」「良さの自覚」)』があれば、それを支えに自信を持って生きていける。それが生きていく上での自分の『柱』となる。苦しく、倒れそうになったときには、それが自分を支える『杖(つえ)』となる。

来年度の教育課程の話し合いを始めています。

来年度も、子供たち一人一人の「良さ」を見つけ合い、認め合い、励まし合って、磨いていくことを大事にしたいと思っています。

(校長 後藤克巳)